

紙風船



10月に入り秋晴れの日が続きましたが、日の光は夏のものとは全く違って見えます。空を飛ぶトンボの数が増え、向こうの山々が少～し色づいてきたように見えるこのごろです。

前期を振り返って、後期へ

今日、前期終業式を迎えました。4月6日の始まりから数えると、2～6年生の授業日数は10月10日まででちょうど106日（1年生は104日）となりました。

前期を振り返っての児童発表は、3年 F.Kさんと5年 A.Mさんでした。自分が掲げた目標に向かってどれだけがんばれたか、後期はどんなことに挑戦したいのか話してくれました。二人はもちろんですが、「ひのきっ子46」全員が前期で学んだことを自分自身の力としてほしいと願っています。学んだことの中には、成功したことだけとは限りません。失敗したり、悔しかったり、悲しかったりしたこともあったはずですが、そこから得たことを大切に、次へ生かす強さとしたたかさを身につけてほしいと願います。

学級担任から子どもたちへ、通知表が手渡されました。前期の一人一人のがんばりが記されています。どうか内容をご覧ください。お子さんと前期のがんばりについてお話をなさっていただきたいと思います。子どもたちは毎日とても元気に過ごしました。



北浦音頭って？！

毎年運動会で踊っている「北浦音頭」について、辰子と八郎の恋の物語だよ、ということを知り、歌詞について調べてみました。歌詞を書き起こしたものを北浦音頭を唄っていた村上さん（5年M.Kさん、3年M.Sさんのお祖父様です）に確認していただきました。田沢湖に伝わる辰子と八郎の伝説が唄われていました。裏面をご覧ください。

田沢湖の湖面が冬でも凍らないのは、辰子と八郎が田沢湖で一緒に冬を過ごしているからだと言われています。熱い恋物語ですね。



秋休みは4日間

10月11～14日まで実質4日間の秋休みとなります。そして、15日が後期始業式です。ちょっとした連休ですが、前期と後期の間の節目のひとつです。子どもたちには「後期になったら〇〇に挑戦したい」というパワー充電の休みにしてほしいと思います。この休み中の過ごし方はとても大切です。約束事を守って生活できるよう励ましをお願いします。

ふくし標語、入賞

令和3年度ふくし標語コンクールが仙北市社会福祉協議会の主催で行われました。標語は「福祉部門」と「ボランティア部門」があり、5・6年生が参加しました。

応募総数593点のうち、ボランティア部門において、6年 H.Mさんの作品が佳作に入りました。おめでとうございます。

佳作 6年 H.Mさん

ボランティア
みんなのために
役立とう

<ほんのささいなつづき> by yonezawa

本当は明日が前期の最終日。学習発表会は半日ですが、子どもたちにとっては大切な大切な時間です。どうぞ見いらしてください。練習の成果と緊張の様子を。日常の中の非日常はとても刺激的。よい刺激としたいなあ。

北浦音頭

- 一 はあー 花の仙北 北浦育ち
吹くや春風 つぼみも笑う
おぼこ娘は その名もたつこ
- 二 はあー たつこ笑えば 紅山桜
におう黒髪 お山の緑
黒目がちにて あふるるえくぼ
- 三 はあー 色々かわらぬ 十 七、八で
花の盛りを 散らしてくれるな
たのしみ様 観音様よ
- 四 はあー われもわれもと 言い寄る男
夏の夜の虫 灯火慕い
飛んで来れども 柳に風よ
- 五 はあー 我が身ながらも ほればれ映し
水に映した 姿と形
あわれなるかや 蛇体と変わる
- 六 はあー たつこかわいや 蛇体となりて
胸の炎も 千尋の底に
深く沈めた たつこや悲し
- 七 はあー 元の姿で波かき分けて
一目なりとも 会えない 潟の
ここは御座の石 岸までおいで
- 八 はあー 沖に立つ波 わたしの思い
岸に立つ波 あなたの思い
うわさ立つ波 女波と男波
- 九 はあー 深く沈むも 浮き来の底に
深く潜めた 変わらぬ誠
ちぎる千尋の 八郎様よ
- 十 はあー かわい 潟尻 北浦娘
親も白浜 あの砂枕
たつこかわいや かわいやたつこ

へおよその意味

美しいふるさと仙北の北浦地方で育った
春風が吹けば、花のつぼみも笑うようになび
いている

たつこが笑えば紅山桜が咲いたよう
黒髪がかぐわしく、山の緑に映える
黒目がちの瞳は美しく、笑顔にあふるるえく
ぼがかわいらしい

美しく艶やかな様子は変わらない
十七、八歳の娘盛りを散らさないと観音様
にお願いをした

たつこの美しさを聞いて我も我もと男たちが
結婚の申し込みに言い寄ってきた
まるで夏の夜の虫が灯に向かつて飛んで来る
ように

自分の姿を自分で見てもほればれとする
水に映した姿と様子をいつも見ていた
かわいそうに、たつこは龍になってしまった

かわいそうなたつこは龍になって
胸の熱い思いを深い湖の底に
深く深く沈めた
悲しいたつこ

元の人間の姿で、一目でいいから会いたいと
母が波をかき分け叫ぶ
ここは潟の御座の石だよ、岸までおいで

湖の沖に立つ波は、わたしの思い
岸に立つ波は、あなたの思い
世間の噂になるのは、女波と男波のようなわ
たしとあなた

湖深く沈んでも、浮かんだり沈んだり湖
の底には
あなたと共に深く潜めた変わらぬ誠の心があ
る

夫婦となった八郎様よ

潟尻の北浦娘 たつこ
親は白浜にいて あの砂を枕にするくらい湖の
そばにいて
たつこかわいや かわいやたつこと歌っている